

2024年2月19日 実施

受験番号	
------	--

2024年度大学院法学研究科 博士後期課程入学試験問題

# 英 語

- (1) 問題冊子、解答用紙、下書用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- (2) 解答用紙の所定の欄に、選択した外国語を○で囲むこと。

次の **English A** (pp. 3-9) 、 **English B** (pp. 10-13) のうちどちらか 1 問を選んで解答しなさい。**English B** については、Q.1 (p. 10) と Q.2 (pp. 11-13)の両方に解答すること。

Choose either **English A** (pp. 3-9) or **English B** (pp. 10-13) and answer the questions.

For **English B** , answer **both** questions Q.1 (p. 10) and Q.2 (pp. 11-13).

### English A

下記の英文は、Stanford Encyclopedia of Philosophy

<<https://plato.stanford.edu/index.html>>というウェブサイトの中の“Positive and Negative Liberty”の項目から一部を抜粋したものです。この文章を読んで、次の(1)～(5)の問いに解答しなさい。

- (1) 下線部[a]の“this irrational desire”は何を意味するのか、単に単語を翻訳するのではなく、その内容について、英文の全体を踏まえて日本語で説明しなさい。
- (2) 下線部[b]について、日本語に翻訳しなさい。翻訳は意識でも構わないので、日本語として適切な文章に翻訳しなさい。
- (3) 下線部[c]について、なぜ“A perfectly contented slave is perfectly free”とすることができるのかを日本語で説明した上で、そうであるにもかかわらず、“we tend to think of slavery as the opposite of freedom”ということとなるのか、この点の理由についても日本語で説明しなさい。
- (4) “positive liberty”のパラドックスとはどのようなことを意味するのか、文章の全体を踏まえて、日本語で説明しなさい。
- (5) “negative liberty”と“positive liberty”のそれぞれの意味について、同じ“liberty”であるのにどのように異なるのか、文章の全体を踏まえて、日本語で説明しなさい。

〔英文〕

文章非公開

**文章非公開**

**文章非公開**

**文章非公開**

**文章非公開**

## 文章非公開

<後略>

### References

- Berlin, I., 1969, 'Two Concepts of Liberty', in I. Berlin, *Four Essays on Liberty*, London: Oxford University Press: 118–72. New ed. in Berlin 2002: 166–217.
- Cohen, G. A., 1995, *Self-Ownership, Freedom and Equality*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Cohen, G. A., 2006, *Capitalism, Freedom and the Proletariat*, in Miller, D. (ed.), 2006, *The Liberty Reader*, Boulder, CO: Paradigm Publishers. Reprinted, New York: Routledge 2016 : 163–82.
- Day, J. P., 1970, 'On Liberty and the Real Will', *Philosophy*, 45: 177–92.
- Steiner, H., 1994, *An Essay on Rights*, Oxford: Blackwell.
- Sugden, R., 2006, 'What We Desire, What We Have Reason to Desire, Whatever We Might Desire: Mill and Sen on the Value of Opportunity', *Utilitas*, 18: 33–51.
- Van Parijs, P., 1995, *Real Freedom for All*, Oxford: Oxford University Press.

Source: Carter, Ian, "Positive and Negative Liberty", *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Spring 2022 Edition), Edward N. Zalta (ed.), URL =

<<https://plato.stanford.edu/archives/spr2022/entries/liberty-positive-negative/>> (最終アクセス日時: 2024/2/9) より一部を抜粋。文中の脚注番号は削除し、References については、抜粋部分で参照されている文献のみを抽出して掲示。

**English B**

Answer both Q.1 and Q.2.

Q.1 Elaborate the following text and argue for/against it.



文章非公開

Source: Amitav Acharya and Barry Buzan, "Why is there no non-Western international relations theory? An introduction," *International Relations of the Asia-Pacific*, 7-3 (2007), p. 288.

Q.2 Read the excerpt below from an article and answer the following two questions.

(1) In 250 words, explain what the [α] “command of the commons” is.

(2) In 250 words, discuss why the authors compare the Soviet Union and China in [β].

文章非公開

**文章非公開**

文章非公開

Source: Stephen G. Brooks and William C. Wohlforth, "The Myth of Multipolarity: American Power's Staying Power," *Foreign Affairs* (May/June 2023).

<https://www.foreignaffairs.com/united-states/china-multipolarity-myth>

(最終アクセス日時: 2024/2/7)

2024 年 2 月 19 日 実施

受験番 号	
----------	--

2024 年度大学院法学研究科 博士後期課程入学試験問題

# 独 語

- (1) 問題冊子、解答用紙、下書用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- (2) 解答用紙の所定の欄に、選択した外国語を○で囲むこと。

問1 次の文章を日本語に訳しなさい。

**文章非公開**

出典:

Hilgendorf, Eric: Digitalisierung und (Straf-)Recht. Plädoyer für eine Perspektivenerweiterung, in: Zukunftsperspektiven des Strafrechts, hrsg. v. Elisa Hoven u. Michael Kubiciel, Nomos, Baden-Baden 2020, S. 141.

問2 次の文章を日本語に訳しなさい。

**文章非公開**

出典:

Schild, Wolfgang: Das nicht-rechtliche Wissen der Strafrechtswissenschaft, in: Populismus und alternative Fakten, hrsg. v. Arndt Sinn, Pierre Hauck, Michael Nagel u. Liane Wörner, Mohr Siebeck, Tübingen 2020, S. 248.

2024年2月19日 実施

受験番号	
------	--

2024年度大学院法学研究科 博士後期課程入学試験問題

# 日本語

- (1) 問題冊子、解答用紙、下書用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。

問題1 以下の文章（青山拓央『心にとって時間とは何か』（講談社現代新書、2019年）より抜粋）を読んで問いに答えなさい。 ※問題作成の都合上、原文の表記等の一部修正した。

**文章非公開**

**文章非公開**

**文章非公開**

問1 下線部①「イーグルマンの提言に、私は必ずしも反対ではない」とあるが、「イーグルマンの提言」とは、どのような理由から何をどのようにすることを提言するものであるかを、本文全体に即して、自分の言葉で説明しなさい。(150字以内)

問2 下線部②「その一方で、非難と修正のバランスをそれなりに取るのではなく、非難から修正へと完全に移行することがイーグルマンの真意なら、その移行の効果について私は疑念をもっている」とあるが、著者がどのような理由からいかなる「疑念をもっている」のかを、本文全体に即して、自分の言葉で説明しなさい。(300字以内)

問題2 以下の文章（伊藤恭彦『貧困の放置は罪なのか』（人文書院、2010年）より抜粋）を読んで問いに答えなさい。 ※問題作成の都合上、原文の表記等の一部修正した。

**文章非公開**

**文章非公開**

**文章非公開**

## 文章非公開

問1 下線部①「世界の貧困問題を『救命ボートの倫理』に従って理解する問題点を、事実の点と倫理の点で検討しておくことにしたい」とあるが、特に前者の「事実の点」に関して著者が指摘する「救命ボートの倫理」の問題点はどのようなものかを、本文に即して、自分の言葉で説明しなさい。(150字以内)

問2 下線部②「この問題を考えるためには、人口と食糧生産に関する事実ではなく、倫理の問題に踏み込まざるをえない」とあるが、著者が貧困の放置を正当化する「救命ボートの倫理」に対し「倫理の問題」の観点からどのように批判を加え貧困の解消を擁護しているかを、本文に即して、自分の言葉で説明しなさい。(300字以内)

2024年2月19日 実施

受験番号	
------	--

2024年度大学院法学研究科 博士後期課程入学試験問題

# 仏 語

- (1) 問題冊子、解答用紙、下書用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- (2) 解答用紙の所定の欄に、選択した外国語を○で囲むこと。

問 次の文章を日本語に訳しなさい。

**文章非公開**

文章非公開

出典：Jean-Marie Carbasse, *Les 100 Dates du droit*, PUF, « Que sais-jue ? », 2015, pp.98-100.